

# 四日市の魅力を 発掘しよう!!



茶畑(水沢町)

イチゴ  
(神前地区)

東海道の  
まちなみ

ナシ(山城町)

トマト(貝家町)

味の素株式会社  
東海パードサンクチュアリ  
(大字日永)

太陽化学株式会社  
南部事業所(山田町)

コンビナートの夜景

## 海と山、そして多彩な産業に恵まれたまち

市では、平成23年度からの総合計画で、いきいきと働ける集いと交流のあるまちを目指し「四日市の魅力の再発見と滞在・体験型観光」の推進を基本的政策の一つとしています。四日市には、恵まれた自然と産業があり、まだ広く知られていない、さまざまな魅力があります。今回の特集では、これらの資源にスポットを当て、紹介に携わっている人たちに話を聞くことで、魅力を再認識し、効果的な情報発信につなげたいと考えています。

# 港

## 繁栄を支える、 世界への窓口

明治32年に伊勢湾で最初に開港場の指定を受けた四日市港。石油化学コンビナートを擁し、近代日本の発展を支えてきた港には魅力がいっぱいです。

LNG船が停泊する  
夜の四日市港

### コンビナートの夜景クルーズ

船からコンビナートの夜景を觀賞する試みとして、平成22年7月に始まりました。市外の人が参加者の7割を占めています。コンビナート企業のOBによるクルーズガイドをはじめ、夜景の見学だけではなく、四日市の魅力をより広く知ってもらい取り組みを進めています。

今年も4月から開催され、通常のクルーズだけではなく、工場見学も含めた「産業観光バスツアープラン」や、旧四日市港からの発着プラン、クルーズと宿泊のお得なセットプランを用意するなど、内容も充実しています。

詳しいお問い合わせは、四日市観光協会  
(HP) <http://kanko-yokkaichi.com> ☎357-0382  
10:00～17:00 火・日曜日、祝日定休日)へ

### 潮吹き防波堤(大協町一丁目)

稲葉三右衛門が築いた旧港が暴風雨によって大破したため、明治26年に築かれました。消波機能のある五角形の穴を設けたユニークなものです。平成8年に近代化遺産の港湾施設として全国で初めて国の重要文化財に指定されました。近くの稲葉翁記念公園には同防波堤の模型があり、水の流れるしくみが分かります。



正面から見た潮吹き防波堤



### 末広橋梁(末広町・千歳町)

現役最古の跳ね上げ式鉄道可動橋で、平成10年、国の重要文化財となりました。



末広橋梁

### 四日市港ポートビル(霞二丁目)

高さ100メートル。1階では、四日市港で輸出入されている品物や姉妹港であるシドニー港を紹介。14階の展望展示室「うみてらす14」では360度のパノラマの景観が広がります。



### コンビナートの夜景(写真2ページ)

四日市港を取り巻く臨海工業地帯は、昭和30年代前半に我が国最初の石油化学コンビナートを形成しました。さん然と輝く夜景は、先端技術が作り出す光のアートです。

## ぜひ見てほしい、 船からの夜の絶景

四日市観光協会  
クルーズガイド 古川勝敏さん



私たちは、現在、4人でクルーズガイドを行っていて、全員コンビナート企業のOBです。四日市のコンビナート夜景は、約10キロメートルにわたり、光の色も橙色、赤色、白色と千差万別で、プロの写真家の評価も高いです。御在所ロープウェイや、中部国際空港、長島の遊園地の明かりも見えます。参加者に四日市の魅力やコンビナートを身近に感じてもらえ、とてもやりがいを感じます。

船からの夜景は、陸から見る以上に絶景です。液化天然ガスを運ぶ大きなLNG船が入港しているときは、本当にきれいです。市外からの参加者が多いですが、市民の皆さんも参加されればきっと新しい発見があると思います。

# 歩いてみよう東海道

いにしへの道を実際に歩いてみると、さまざまな魅力に出会えます。東海道を三滝橋から諏訪神社まで、歩いてみました。

**三滝橋(川原町・北町)**  
東海道五十三次で歌川広重が描いた「四日市宿」の浮世絵は、まさにこの橋から、海に向かって見渡した風景といわれています。橋の南に餅屋があり、この店の「なが餅」は、江戸時代から伊勢参りの土産物として知られていました。

**札の辻(中部・北町)**

餅屋からさらに南に進んだ交差点が江戸時代は「札の辻」と呼ばれ、最も栄えた地域。本陣・脇本陣や、約120軒の旅籠が並んでいました。少し東に入ると、四日市宿陣屋(代官所)跡(現在の中部西小学校)や、当時の井戸として市指定天然記念物の「洒水の井戸」が残る建福寺があります。本陣の門は空襲から焼け残り、現在は少し西にある薬師寺の門として移築されています。

**四日市宿陣屋(代官所)跡(北町)**

現在の中部西小学校の地にあり、明治時代には、県庁が置かれたり、三重県最初の公立小学校である「四日市学校」が創立されました。三重県という名称は、当時この辺りが「三重郡」と呼ばれていたときに県庁が置かれたことによります。

**指差しの道標(中部)**

柳通り(国道164号)を、渡ったところで東海道が急カーブ。これは、当時の道筋が残ったもので、今は住宅地となっている場所を突き抜けて、諏訪神社前の商店街アーケードへとつながっていました。また、そこには「指差しの道標」と呼ばれる、人差し指で方向を示すユニークな道標のレプリカも置かれています。

指差しの道標



**昔の四日市の姿を伝えたい**

四日市観光ボランティアガイド  
村田三郎さん

四日市の場合ほとんどのものが昭和20年6月の四日市空襲で焼失してしまいました。また、まちの発展に伴い、東海道の宿場町として栄えた当時の遺物はほとんど姿を消してきました。だから、以前のまちの風景や四日市の魅力を、現地を案内しながらお客さんに伝えたいと考えています。お客さんに「四日市が好きになった。」「四日市は本当にいいところですね。」と言ってもらったときに、とてもやりがいを感じます。



# 産業観光

## 工場見学をしよう

石油化学コンビナートにはさまざまな企業があります。そのいくつかは工場見学ができます。

**おなじみの製品が四日市で誕生。敷地内に野鳥の繁殖地も**

味の素株式会社 東海事業所(大字日永)

この工場では、本物のかつお節を使った風味調味料「ほんだし®」を生産。工場見学には、年間約7,000人が訪れます。

また見学コースに含まれる敷地約4,000坪の「味の素東海バードサンクチュアリ」(写真左下)には広大な天然の池と緑地があり、アオサギやカワウなど約50種類の野鳥の楽園となっています。4月からは、四日市萬古焼の土鍋を使った『土鍋de「ほんだし®」ごはん』の試食や、単一工場では国内最大規模のマヨネーズ工場を持つ、味の素グループのクノール食品株式会社中部事業所の見学も新たに加わります。

同所次長の西野大介さんは、「工場見学は四日市の良さを知っていただく良い機会。さらに工夫していきたい」と意欲的です。

☎ 0120-170-153 ※20人以上の団体のみ。要予約



工場内のロビー



**目を見張る塩山の風景と煙突、配管などの造形美**

東ソー株式会社 四日市事業所(霞一丁目)

この工場では、主にポリエチレン、塩化ビニルといわれるゴミ袋やポリバケツ、消しゴム、浴槽洗剤などの原料を製造しています。宇宙都市のような工場設備、塩化ビニルの原料となる大きな塩の山などが見られる工場見学(写真上)では、毎年数百人を受け入れています。4月からは、夜景クルーズと共同した産業観光ツアーにも組み込まれており、クルーズガイドにOBの人たちも参加しています。

総務課長の田中正美さんは「工場見学と他の観光資源とを連携させ、四日市の魅力発信とイメージアップにつながるよう、積極的にお手伝いしたい」と思いをさらに広げます。

☎ 四日市商工会議所(☎352-8195)

※5人以上の団体のみ。要予約

市内の企業の多くは、小・中学校の社会見学の受け入れや、企業が持つ知識・技術などを理科教育に生かすため、出前授業などを実施しています。例えば、太陽化学株式会社(写真2ページ)では、社員が中学生を対象として「お茶の科学」という出前授業を実施しています。

## 萬古焼での料理「土鍋deごはん」で魅力発信

日本一の生産量を誇る四日市萬古焼の土鍋を使った魅力発信も始まっています。「土鍋deごはん」という取り組みで、萬古焼土鍋と四日市の旬な食材を使って新しいメニューを開発し、市内の飲食店で食べてもらおうというものです。

●11ページの「四日市のおいしいレシピ」でも「土鍋deごはん」のレシピを紹介しています。

### 「かぶせ茶鍋」をどうぞ

アラウンドフォー(※)理事メンバー  
吉田金二郎さん

私の店では地元の食材やお酒、四日市萬古焼の器を取り入れています。「土鍋deごはん」のプロジェクトを知り早速参加。そ

の開発第一弾の「かぶせ茶鍋」を実際にメニューで取り扱っています。この鍋は、白菜や水菜、ホンシメジなどの地元の食材を水沢の「かぶせ茶」を混ぜたスープで煮たものです。市民の皆さんだけではなく、市外から夜景クルーズに参加した人にも帰りに食べてもらい、もっと四日市が好きになってくれればと思います。



かぶせ茶鍋

※38店舗18企業の若手飲食店経営者による、飲食業界から地域活性化を目指す団体

# 道

## にぎわい運ぶ東海道 43番目の宿場町

四日市は東西を結ぶ交通の要所として古くから栄え、江戸時代には東海道43番目の宿としてにぎわいました。沿道には今もいにしへの面影が息づいています。



# 味

## 独自の味で 四日市の魅力発信

鈴鹿山脈の豊かな伏流水や、鈴鹿おろしなど、恵まれた自然条件をいかした、四日市独自の味で魅力を発信しています。

### 大矢知手延素麺

#### 冬の美しい風物詩

冬の鈴鹿おろしと朝明川の清流という気候と風土に恵まれた大矢知地区では、およそ200年前から手延素麺が作られています。寒気が厳しい早朝から、庭先に並ぶ「めん糸」は冬の美しい風物詩です(写真上)。

### 地酒

#### 県内で最大の酒どころ

酒のいのちと言われるのが仕込み水です。鈴鹿山脈の豊かな伏流水を使った酒はまろやかな味で知られ、古くは奈良時代につくられていた記録があります。市内には6の蔵元があり、県内で最大の酒どころとなっています。



### 四日市とんてき

#### 四日市オリジナルご当地グルメ

昨年の11月に姫路市で行われた第6回B-1グランプリに出展。近年注目を浴びている、四日市オリジナルご当地グルメです。

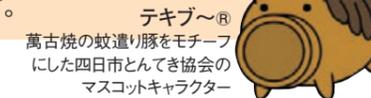


四日市とんてき協会  
代表理事  
小林慶太郎さん

活動を始めてから約4年が経過し、とんてきマップへの掲載店も現在では40店舗を超え、四日市とんてきの関連商品の販売や、コンビニエンスストアで四日市とんてき弁当が発売されるなど、「四日市とんてき」はご当地グルメとして好評をいただいています。

B級ご当地グルメの祭典である「B-1グランプリ」にも昨年2回目の出展。グランプリでは、萬古焼の陶板を使用、かぶせ茶も振る舞いました。

オール市民で四日市の魅力を発信していくことが夢です。とんてきとともに四日市の魅力が伝わり、市民の皆さんが自分のまち「四日市」に誇りを持って、市外の人に語れるようになればいいと思います。



テキブ〜  
萬古焼の蚊遣り豚をモチーフにした四日市とんてき協会のマスコットキャラクター

### 取材を終えて

今回の特集を編集するにあたり、いろいろな人にお話を伺いましたが、皆さん、四日市のことを良くしたいと熱い思いの人ばかりでした。紙面に掲載し尽くせないほどたくさんの方の「誇りに思える魅力」が四日市にはあります。今後、このような四日市のよいところをもっとPRしていきたいと考えていますので、市民の皆さんも一緒に四日市を自慢していきましょう。

(観光推進室 清水、広報広聴課 田中)

### あなたの身近な四日市の魅力を教えてください

身近な魅力を掘り起こし、工夫して発信することで、新しい四日市の魅力を育てていきましょう。

### イチゴ 行列のできるイチゴ狩り

四日市の新しい魅力の一つに「イチゴ」があり、神前地区をはじめ市内各地で栽培しているほか、小山田、内部、県地区の3カ所ではイチゴ狩りも楽しめる農家があります。

取材に伺ったのは、貝家町でイチゴの販売やイチゴ狩りを行っている寺田成吾さん。若くしてイチゴ農園の経営を始めました。市内でも早くからイチゴ狩りを開始し、今では、休日に200人ほどのイチゴ狩りの希望者の行列が農園の前にできるほどの盛況ぶりです。



イチゴ栽培  
寺田成吾さん

イチゴは、ハウス栽培とはいえ、天気や日照時間の影響を受けやすく、イチゴ狩りの予約の入っている日に向けておいしいイチゴを準備するため、天気とにらめっこする日が続きます。でも、お客さんが喜んで食べるのを見ると日頃の苦勞が報われた気がします。この農園では練乳は販売せず、イチゴ本来の甘みやおいしさを味わっていただきたいと考えています。

今、イチゴ入りの焼肉のタレの発売などを計画しています。また、市外からのお客さんも多く、イチゴ狩りだけでなく、市内の魅力を満喫してもらえるような取り組みもしていきたいと考えています。

### お茶 全国に誇る「かぶせ茶」

市西部の鈴鹿山麓地域ではお茶の栽培が盛んで、特に「かぶせ茶」の生産は全国一を誇ります(詳しくは、10ページの「四日市の日本一」のコーナーをご覧ください)。また、お茶の産地にふさわしく、茶室「泗翠庵」が鶴の森公園内にあり、誰でも気軽にお抹茶を楽しむことができます。



### トマト はち切れそうな ジューシーな味

四日市は、古くから促成トマトの栽培が盛んで、現在も内部地区を中心に生産されています。2~5月にかけてトマトの最盛期となり、農協の直販施設などでも店頭に並びます。

新しく農業を始めた鶴見清高さんは、脱サラし、昨年から上海老町でミニトマトを栽培しています。その新鮮なトマトは甘みだけでなく、適度な酸味もありおいしいと評判です。



ミニトマト栽培  
鶴見清高さん

もともと農業に興味があり、第2の人生を充実したものにするために、本格的に農業を始めました。市主催の「農業ビギナー研修」を受けたり、県農業大学の社会人課程に1年通ったりして、実習や勉強を重ね、トマトの栽培を始めました。

病気の予防などで、とても忙しいですが、働いた成果がすぐに出るので充実感があります。とれたての野菜がどんどん市内に出荷されるようになれば、皆さんが毎日新鮮なおいしい野菜を食べられるようになり、四日市の魅力として自慢できるようにしたいと思います。



B-1グランプリでの出展

# 農産物

## 豊かな自然が育む フレッシュな恵み

市街地から一步出てみると緑の農地が広がっています。そこで育まれた農産物が人気を呼んでいます。